

編 集 後 記

本年の日本医学会総会の開会式は文字通り立錐の余地なしという盛況であつた。開会前にはむしろ大げさ過ぎるのではないかという感じがした位であつたが、式の進むにつれて漸く気分が盛り上がり、この規模の大きさも亦わるくないように思われて来た。一種の祭典であり、シヨウであり、演出でもあるから或程度には派手なものよい。然し本質はあくまでも医学会であるから、その形式の立派さにはおのずから限界がある。開会の辞、その他に於て感銘すべき多くの言葉が述べられた。特に仁術としての医の本質が強調せられたように思う。これは現代世相を想う時に、まことに適切な発言である。然し昔のままの仁術は通用しない現実社会であることも同時に考えねばならぬ。医学、医療、医師に関係ある種々の深刻な問題が山積しており、これに就て根本的に検討することも極めて重要である。学会会議会長兼重寛九郎博士が列席の総理大臣らを前にして、科学研究の危機に言及し、これを救うために為政者の理解と援助を望むと述べたことに對して、聴衆から盛んな拍手が起つたのは特に印象的であつた。小泉信三博士が医者でない立場から医の倫理を説かれて多大の示唆を与えられた。この講演に際して外国人を除いては離席する者は殆どなかつた。秩父宮妃も聴いて居られた。医者には実に重大な道徳的責務があると思う。清貧に安んずることもある。然しそれであるからこそ医師はおのずから尊敬せられ、厚く遇せられるべきではなからうか。医師に仁術を押しつけるのみではいけない。学術大会や展示会も新機軸の下に行われて大きな収穫があつた。ただ分科会と総会の日時が別であるし、聴きたいと思う総会講演の日時が離れていることもあつて、日数が多くなるので、地方会員には困つた一面もあつた。



日本泌尿器科学会の理事会や評議員会にてはなるべく多くの問題に就て活発に討議したいものである。学術大会は今回の特殊事情のために会期1日で終了した。然しそのために充実した1日であり、得る所は大きかつた。例年の宿題や特別講演に相当するものは医学会総会講演として別の日に行われた。尿石症と尿路腫瘍に関するシンポジウム形式のもので、これ亦意義多いものであつた。今後はこのような形式の演説が増加してゆくであろうと考えられる。

購 読 要 項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い。片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所屬機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻譯します。抄録用の原稿を送ること。翻譯の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。